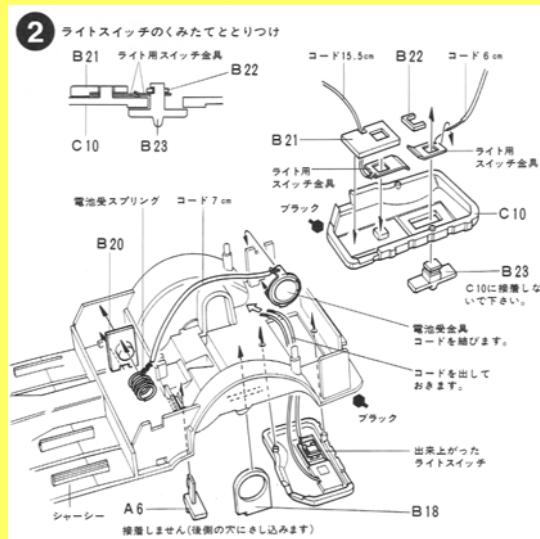


第35回 サバンナRX-7(タミヤ)の巻



銃を取ったら、アニーにおまかせっ あっ、何故このキットの紹介がこのフレーズで始まるのか、若い方にはちょっとわからないかも…その昔、「宇宙刑事シャイダー」という特撮TV番組がありました。宇宙刑事というのは凶悪な宇宙人を逮捕(というか駆逐)して宇宙の平和を守るのが任務であり、銀河系内で組織化されています(先代のシャリバンは太陽系担当に昇格)。宇宙刑事は超科学装備を使用し、有事の際にはコンバットスーツを身に付けて砂利採取場でも不自然さを感じさせずに宇宙犯罪者(相手も組織化されている)に対峙するのです。地球担当の宇宙刑事はシャイダーという若者で、彼はアニーというパートナーと協力して任務にあたります。アニーにはコンバットスーツが用意されておらず、サポートが中心の任務となります。地球の日常でアニーの手足となる自動車が今回紹介するマツダRX-7(の外観をした車輛)なのです(長い前置きで済みません)。もっとも、この車を使っていたのはアニーだけではありません。80年代特撮番組御用達状態だったのです。文献によれば、当時幾つもの特撮番組にRX-7(の外観をした車輛)が登場していました。その当時リトラクタブルヘッドライトを搭載した国産車はほとんど皆無であり、他の車との絶対的な違いに子供心に憧れたものです。そのような流行を敏感に感じ取って、この車が特撮番組に多く起用されたのでしょう。



このタミヤのキットは最大の特徴であるリトラクタブルヘッドライトの開閉と点灯が可能となっています。当時のこのサイズの自動車模型はモーター走行が普通でした。また、麦球という小さい電球をライトに内蔵して光らせることも流行しました。しかしモーター走行用電源に麦球を接続すると、普段は明るいのに走らせたとたん明かりが微かになって(走行負荷が掛かる為)悲しい思いをした方も多いのではないでしょうか?このキットでは走行用と発光用の電源を別にすることでそういう問題も起こらないようになっています。尚、このキットは再販品です(幸いなことに、ギミックは当時のままでした)。90年代後半、当時同じ模型店に入りしていたB君が目ざとく見つけて買ってきてくれたものです。

キットデータ	
メーカー	タミヤ
スケール	1/24
当時価格	900円(税抜)